

信楽の狸の置物

信楽は、日本の六古窯の一つとして知られており、800年以上前から陶器づくりが行われてきた歴史ある地域です。

2004年に町は他の4つの自治体と合併して甲賀市となりました。甲賀市を訪れると、忍者のモチーフと並んで、たくさんの狸の置物を見ることができます。信楽の陶工、藤原鋳造が1950年代初頭に最初の狸像を作り、昭和天皇をこの狸像でお出迎えして以来、狸の置物は日本を代表する名産品となりました。最もよく知られているバージョンは、帽子をかぶり、酒瓶を持った「八相縁起」と呼ばれる狸の姿ですが、甲賀市では変装した姿も見られます。

信楽の福狸は、日本中で幸運の象徴として人気があります。「他を抜く」という意味の「ためき」という言葉にちなみ、多くのビジネスオーナーが商売繁盛を願って、自店やレストランの入り口に狸を置いています。

何世紀にもわたり、信楽焼はその高い品質で評価されてきました。信楽焼には壺、食器、茶道具、そして近年では花瓶や陶磁器タイル、その他の装飾用の置物も含まれています。